

Minami Kyushu University Syllabus											
シラバス年度	2023	開講キャンパス	都城	開設学科	子ども教育学科						
科目名称	幼児と言葉					授業形態	演習				
科目コード	750190	単位数	1	配当学年	2	実務経験教員担当		アクティブ ラーニング	○		
教員氏名	藤本朋美										
授業概要	<p>本授業の目的は、保育者として、子どもを理解しながら、子どもの言葉の育ちを援助するために必要な知識や技術、省察力を身に付けることである。</p> <p>保育者として子どもの豊かな言葉の育ちを支えるためには、領域「言葉」の観点から子どもの育ちを捉え、子ども理解を深めながら、保育内容について具体的に考え実践していくことが求められる。そのために授業では、人間にとっての言葉の意義と機能、言葉を獲得していく子どもの発達過程や言葉への関心のありよう、児童文化財の特徴や子どもにとっての意義について学ぶ。同時に、子どもたちの言葉に対する感覚を</p>										
関連する科目	<p>事前に「保育者論」「保育・教育課程論」を受講しておくことが望ましい。</p> <p>同時に「保育内容総論」を、履修後に「保育内容指導法（言葉）」「幼児理解」を受講することが望ましい。</p>										
授業の進め方 と方法	<p>毎回の授業において、演習形式の授業を行います。1回の授業構成は次のとおりです。</p> <p>授業の前半では、各テーマについての講義を行います。</p> <p>【知識・理解の獲得】</p> <p>後半ではグループディスカッション等にて、前半の学びを深めます。</p> <p>必要に応じて、レポートや小テスト、プレゼンテーションにより学習状況を確認します。</p> <p>【知識・理解の獲得】【汎用的技能の育成】</p> <p>毎回の授業終了時には「学習の記録」を書き、自身の学びについて振り返ります。</p> <p>【態度・志向性の育成】</p>										
授業計画	<p>第1回 言葉のもつ意義と機能① 人と言葉のかかわり 人にとって言葉とは何か、ワークショップを通して学ぶ。</p> <p>第2回 言葉のもつ意義と機能② 話し言葉 生活のなかで子どもたちはどのように「言葉による伝え合い」を経験していくのか、どのように楽しんでいるのか、子どもたちの具体的な姿を通して学ぶ。</p> <p>第3回 言葉のもつ意義と機能③ 書き言葉 生活のなかで子どもたちはどのように「文字の意味や役割」に気付いていくのか、文字を用いてどのように楽しんでいるのか、子どもたちの具体的な姿を通じて学ぶ。</p> <p>第4回 言葉に対する感覚を豊かにする実践① 言葉の楽しさ 繰り返し言葉やおノマトペ、しりとりやなぞなぞ等、子どもたちが好む言葉遊びを通して、言葉の楽しさや美しさについて学ぶ。</p> <p>第5回 言葉に対する感覚を豊かにする実践② 保育者の関わり 言葉遊びと子どもたちの言葉の育ちの関係について考えながら、求められる保育者の関わりについて学ぶ。</p> <p>第6回 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財① 特徴と意義 児童文化財とは何か、子どもたちの育ちにおいてどのような意義があるのかについて学ぶ。</p> <p>第7回 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財② 絵本・お話 絵本の読み聞かせやお話（ストーリーテリング）を体験することを通して、児童文化財を用いた保育実践について学ぶ。</p> <p>第8回 言葉をめぐる現代的動向 子どもたちの言葉をめぐる社会の変化や動向を捉え、保育者に求められている姿勢や力について学ぶ。</p>										
授業の到達目標	<p>1. 人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について理解し、子どもの言葉の発達過程とともに説明することができる。【知識・理解の獲得】</p> <p>2. 子どもの言葉の感覚を豊かにする遊びや言語環境について理解し、求められる保育者の関わりについて考えることができる。【知識・理解の獲得】【汎用的技能の育成】</p> <p>3. 児童文化財についてその特徴と子どもの育ちにおける意義を理解し、保育への取り入れ方について考えることができる。【知識・理解の獲得】【汎用的技能の育成】</p>										
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力	(1)	○	(2)							
	2. 汎用的技能を応用し活用する能力	(1)	○	(2)							
	3. 人間力、社会性、国際性の涵養	(1)		(2)	○	(3)		(4)	○	(5)	
授業時間外の学修	<p>&lt;予習&gt; 授業時に予習教材を提示します。次の授業までに確認してください。(1時間程度)</p> <p>&lt;復習&gt; 授業後には、授業の要点を整理するとともに、「学習の記録」に自らが記した「問い」について、関連した図書・資料などを読み、自身の考えを深めてください。また、実践に関する事項については、事例を多く収集し練習を重ねてください。(30分程度)</p>										
課題に対する フィードバック	小テスト、レポート、最終試験は、評価後、返却し解説します。										
評価方法・基準	<p>学習への意欲的な取り組み（学習の記録） 30点</p> <p>レポート 20点</p> <p>最終試験 50点</p>										
テキスト	<p>『保育所保育指針解説』厚生労働省（2017）フレーベル館、（320円＋税）</p> <p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省（2017）フレーベル館、（240円＋税）</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）フレーベル館、（250円＋税）</p>										
参考書	必要に応じて図書、資料を紹介する。										
備考											